

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：平成 28～令和 3 年度)

代表機関：東京農工大学（総括責任者：千葉 一裕）

共同実施機関：東京外国語大学、国際農林水産業研究センター、首都圏産業活性化協会

取組の概要

- 東京農工大学、東京外国語大学、国際農林水産業研究センター、首都圏産業活性化協会が協働し、ネットワーク機関（大学等7機関、企業15社以上）と連携して、女性研究者の活躍推進を実現する“関東プラットフォーム”を創生する。
- 研究機関による先駆的な農学および工学分野の研究がグローバル分野と融合し、女性研究者による国際共同研究（地球規模課題：食料、エネルギー、環境、多言語）を実施、産業界である首都圏産業活性化協会との産学連携により、国際的な研究成果の輩出と研究力向上を図る。
- 積極的な女性研究者の採用、養成、幹部登用のために、国際的なダイバーシティ環境・SNS・グループメンター・女性幹部登用ポジティブアクション「1 プラス 1」・ライフイベント支援等を“関東プラットフォーム”で推進する。最終的には本システム改革を牽引・普及して、女性研究者が機関や地域を越えて活躍できる“全国プラットフォーム”を形成する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	b	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

代表機関のリーダーシップの下、関東圏の 30 機関が参画する、女性研究者のネットワーク「関東プラットフォーム」を構築し、「全国プラットフォーム」への展開を図るとともに、女性研究者のための「国際共同研究支援制度」、「女性幹部登用ポジティブアクション『1 プラス 1』」、「上位挑戦型女性公募」、「教授職挑戦制度」等、多様な特色ある取組を実施したことは評価できる。一方、女性研究者の在職比率、採用比率等に係る所期の目標が代表機関を含め連携する 4 機関で多くが未達となっており、代表機関が培った取組好事例や女性研究者活躍促進に係る知見が共同実施機関へどう波及したのか、また、共同実施機関を牽引すべき代表機関がこれまでの成果の上に新たな成果をどう積み上げ、定着させたのか判然としない。今後は、成果の検証を丁寧に行い、持続的な改善に努め、所期の目標の早期達成を実現することを期待する。

- ・**目標達成度**：女性研究者ネットワーク「関東プラットフォーム」の創設とその「全国プラットフォーム」への展開を実現したことは評価できる。しかしながら、中間評価における指摘にもかかわらず、女性研究者の在職比率、採用比率、管理職の女性比率に係る所期の目標が代表機関を含め連携する 4 機関で多くが未達となっており、早急な改善策の策定が求められる。
- ・**取組**：「関東プラットフォーム」の構築、連携機関が共同して運営する「女性研究者サポートシステム」による研究環境整備に加え、「国際共同研究支援」の推進による研究力強化、「女性幹

部登用ポジティブアクション『1 プラス 1』による管理職登用の推進が図られたことは評価できる。

- **取組の成果：**女性研究者のための「国際共同研究支援制度」を構築し、24 件の国際共同研究を支援し、女性研究代表者の研究業績を大幅に向上させ昇任に繋げたこと、「女性幹部登用ポジティブアクション『1 プラス 1』」により、3名の女性幹部が誕生したことは評価できる。しかしながら、共同実施機関のみならず代表機関においても、所期の目標の多くが達成できておらず、連携する4機関全体で事業実施期間内に増加した女性教員数は1名にとどまった。
- **実施体制：**連携する各機関に事業実施母体を設置し、定期的に協議会を開催するとともに、代表機関の専任コーディネーターが円滑な事業の推進体制を構築したことは評価できる。また、有識者よりなる外部評価委員会を設置し、取組に対する評価、助言を得る体制を整備したことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性：**実施期間終了後も4機関の連携体制を維持し、「関東プラットフォーム」を拡充、活用することにより事業を継続する計画であり評価できる。4機関それぞれにおいて、本事業の成果を振り返り、何を活かし、何を改善すべきか十分に検証することを期待する。